

ホットライン

熊本

支援物資を 避難所に届けて

【県本部】17日、宇城市と八代市に支援物資を届けました。宇城の避難所にリクエストがあったバナナ百本と体重計、尿もれパッドを届けました。

「避難所の食事には生ものが出ない」とバナナが喜ばれました。宇城では2016年の熊本地震の後に建った防災センターの天井が落ちて断水。震



八代市で避難している会員(中央)を訪問▶熊本

度7に耐えられない建物だったのです。

八代では、会員宅に会員と隣の支部からも集まり、物資の仕分け作業をし、しんぶんとともに会員に届けました。

車中泊で眠れないなか中学校に避難している会員を訪ねました。避難所に段ボールベッドが届き、ホッとした様子でした。一方、学校再開で避難所を移動しないといけないことや、「災害住宅などに移る場合、住み慣れた場所を離れるのか」と不安も話されていました。

署名は親子連れや夫婦での賛同が多かったです。

鳥取

街頭で原爆写真展 平和の2署名行動

【境港支部 三原真由美】

岩手

写真展、9条署名： 平和のとりくみ

【岩手町支部 愛木タエ



親子で署名▲鳥取

【8月8日、さわやかクリニック前で赤紙配布、スタンディング、9条署名行動にとりくみました。35人分の署名が集まりました。

9日〜12日はきずなの家で原爆写真展を開き、22人が訪れました。「ちひろの戦火のなかの子どもの絵本と文章を見て涙が出た。戦争はため」「ゆつくり時間をかけて見ることができた」など感想が寄せられました。



親子ばと旗もひろげて▲岩手

東京

すいとん作り 平和を考える

【多摩支部さくら班 山本さゆり】8月8日、毎年恒例の「すいとんを作る会」を開きました。参加者は14人。みんなで野菜を切り、小麦粉を練り、80代の方から作りかたを手ほどきしてもらいました。

野菜が煮えるまでの時間に、平和を考える絵本『ヒロシマ 消えたかぞく』と『出発 から草もようが行く』の読みかかせをしました。

食後は、地域に住む82歳の方から「北朝鮮からの引き揚げ」の話を聞きました。何日も何日も、ひたすら歩いて38度線を必死で越えた両親、その背におぶわられて奇跡的に助かった命というお話に、参加者が涙ぐむ場面もありました。



平和の絵本を読み聞かせ▲東京

大阪

「青い空」20周年 コンサート

【箕面支部 神田次英】

うたごえサークル「青い空」20周年記念コンサートを7月25日に開きました(無料)。ロビーでは



メンバーは60代〜90代▲大阪

「うたごえは平和の力」で20年歌い続けてきました。2026年、求めるのは「平和」です。1部は、なじみの平和の歌などを歌い、2部はゲストの中学1年生のファゴット演奏もあり、楽しいひととき。次世代に新婦人を知らせるチャンスととりくみました。よかったです。

【9月大型連休期間のしんぶんの発行について】

9月26日号は「9月26日号」と10月3日号の合併号」とします。表紙の期日より遅くなり申し訳ありませんが、10月3日(土)までにお手元に届きます。

新日本婦人の会中央本部

春雄さんと結婚



道路舗装工事の作業をする久世さん(後ろ姿)

力月しかいませんでした。春雄さんが私を迎えにきたのです。

1958年3月末、私は春雄さんと結婚しました。最初の1年間、私は以前働いていた北海道の農家に住み込みで働き、夫は毎週土曜日まで仕事をし、日曜日に私がいる農家にきて手伝いをして帰っていききました。結婚から1年後、私は夫のお母さんと妹がいる家で暮らし始めました。

当時、夕張の炭鉱はどんどん大きくなっていましたが、時代は石油へと移り変わろうとしていました。当時の私たちにはそれを知る由もありませんでした。 つづく

母の歴史

北海道 久世公子さんのお話

(4)

1953(昭和28)年に、戦後の失業者救済のため、国の失業対策事業(失対)が始まりました。失対の日雇いで働く人たちの組合、全日本自由労働組合(全日自労)もできました。失対で働く人は夫と死別した女性も多かったのです。

父は、全日自労の分会長をしていた春雄さんを気に入り、家に連れてくるようになりました。彼は毎日のようにきて、私の妹や弟たちが学校に上がる際にかばんを買ってくれました。

私たちが上の3姉妹が働きに行くようになった頃、両親が離婚。父は下の4人を母に残し、福島県郡山に行ってしまうました。

私は父に2人の弟妹を連れていくよう手紙を書き、私も後を追って郡山で働き始めました。でも郡山には4